＜お知らせ＞  
  
先週もお伝えしたのですが今週から『ホテルインヒューマンズ』が正式に本選復帰ということになります。

またランクインした5作品、そして注目・ピックアップ等の3作品についての詳細な（もしくは大雑把な） 感想につきましては、ランキング表のレビューボタンからレビューを併せてご覧いただければと思います。それでは第5週目の中身を実際にランキングを通して振り返っていきたいと思います。

今週はですねイントロでも 申し上げた通りランキングは大きな変動がありました これは大変喜ばしいことであります。  
  
 第1位『CITY THE ANIMATION』 こちらはですね とにかく京アニが 何ともすごい何かを作ったぞということで、実際にそれが面白いものだったかどうかは別として、とにかく圧倒的なものを作り上げたということを評価したものになっています。

第2位『その着せ替え人形は恋をする シーズン2 』今期のクローバーワークス3部作 もしくはクローバーワークス作品、全般に言えることだと思うんですが 過度なですね ハイクオリティー作画ごり押し、もしくは メロドラマチックな盛り上げ演出、そしてなんとも冴えないギャグや 落ちない落ちといったものが目立つ作品でもあります。個人的には今回もちょっとご都合、不自然、違和感を感じるところが結構あったんですが、それを遥かに凌駕する素晴らしいシーン などが 結構見られたのでそれを評価しています。  
  
 第3位 『Turkey!』こちらもですね 第1話の最後で多くの視聴者をずっこけさせて以来、別路線（ク◯）をひたすら真っしぐらだと思われていたんですが、前回ぐらいから若干違った様相を見せ始め、今回なんかは本当にいいもの見せてくれちゃいました。 何気にここまでの序盤から中盤までにちゃんとレイヤーを積み重ねてきているといったことを感じさせてくれる内容でとても良かったと思います。で今後はちゃんとトップ5に絡んでこれる作品として見れるんじゃないかなと思って非常に期待しています。 面白いです。  
  
 第4位 『フードコートで、また明日。』こちらは第1話からずっと秀逸な 脚本・構成・演出で、シュールなシチュエーションアニメ ということで見せてくれてきていますが、今回も例に漏れず本当に素晴らしかったです。山本と和田の友情の慣れ染めや、2人の友情に対するあり方なんていうのも本当に心を 打つ素晴らしい回でした。ただちょっとだけ個人的にどうしても気になる点があって、それが響いてしまったので若干順位と点が 落ちていると思います。  
  
第5位 『ホテル インヒューマンズ 』実際第2話で本線から離脱をなった本作ですが、その後第3話、第4話となかなかいいものを見せてくれました。そして今回の第5話でもって3話連続で 印象深いものを見せてくれたということで、今回 正式に 本線復帰が確定したわけです。今回の話は全く持って目新しいかは分かり ませんが内容・構成・見せ方としてはかなり良かったと思います。面白かったです。また、女性コンシェルジュのミステリアスで謎めいた魅力個人的に大好きです。  
  
以上が ランクインしたトップ5の作品 のざっくりとした感想になります。それでは引き続きランク外の注目作品等に 触れていきたいと思います。

それではまずスポットライト枠、

『薫る花は凛と咲く』こちらは先ほどの『その着せ替え人形は恋をする』同様、CLOVERWORKS作品ということで まあ凄かったです。何が凄かったかと言うと、これでもかとというほどのご都合と押し付け過度な演出で見せてくれました。正直言って”自分は一体何を見せられているんだ？”と唖然とすると同時に、ここまでまあ振り切ってやってくれたからこそ見せることができる1話を作った、という事実を評価したということです。是非ともこの不自然なご都合盛り、過度なドラマチック盛り上げを堪能してください 。

それでは次はエディターズピック、

『ふたりソロキャンプ』 こちらは序盤はヒロインの非常識さや礼儀知らずといったものが目立ち、多くの視聴者を不快にさせました。また作画の崩れも問題になったりして結構切った人も多かったでしょう。それが回を追うごとにだんだん良くなってきました。この非常識の失礼女、シズクに対する悪印象も少しずつ払拭されると同時に、何故そこまでに人嫌い？とも思えるおっさんソロキャンパーのゲンさんに対しても、親近感も増してきたと思います。前回から登場した、如何にも軽そうなゲンの高校時代からの腐れ縁のアキヒトもクセが強い割にいい味も出していて、作品に幅をもたせるいいキャラだと思えます。今回は念願の一人ソロキャンを堪能するゲンさんと、みんなで食事をしているヒロインとの2元中継的な見せ方も良かったのでピックアップしました。

そして最後のク◯枠は、二週連続で

『サイレントウィッチ　沈黙の魔女の隠しごと』 でした。もういっそのことずっと沈黙したまま隠れていてくれればどんなに良かっただろうかと思います。第1話の時点では大分期待しちゃって序盤まあまあ評価しちゃっ てた自分を恥ずかしく思います。そして引き継ぎ 羊文学さんに対しても同情しかありません。とにかくご都合・唐突さ・脈絡のなさが全てで、最強の可愛いヒロインがいざという時に謎にイキりつつ、普段はふにゃふにゃしていればいいのだろうという作品ですね。 今期この座は『Turkey!』のものに決まったと思っていたのですが、本作が意外にも、いとも簡単に奪い去っていったという状況です。やれやれ。

以上が、今週のランク外のピックアップ3作品となります。 また、実際現時点において、22作品を評価対象として視聴し続けているわけですが、今週は全体的に出来が非常に良く、おそらく第12、3位ぐらいまではランクインにかなり迫る勢いで激しい競り合いを見せていました。そんな喜ばしい週だったのですが、6位以下をざっくりと紹介すると以下のようになってます。

第6位 『薫る花は凛と咲く』

第7位 『鬼人幻燈抄』

第8位 『ふたりソロキャンプ』

第9位 『瑠璃の宝石』

第10位 『出禁のモグラ』

第11位 『青春豚野郎はサンタクロースの夢を見ない』

第12位 『ブスに花束を』

第13位 『宇宙人ムームー』

第14位 『よふかしのうた Season2 』

第15位 『光が死んだ夏』

以下省略

（※ピックアップ作品込み）

この中で上で触れていない作品について、一言ずつ軽くコメントします。（一部長文有り）

『鬼人幻燈抄』相変わらず素晴らしいですし、面白いです。本当にたくさんの人の目に触れて欲しい作品です。是非見てください。

『瑠璃の宝石』、今回も面白かったし、良かったです。凪さんの語りも熱くグッときたし、瑠璃のモヤモヤの話も良かったです。

『出禁のモグラ』こちらも個人的には 面白かったし、楽しんで見ている作品です。 レッサーパンダ君の弟の絡みの話が面白かったです。

『青春豚野郎はサンタクロースの夢を見ない』こちらは前にも言ったんですが、毎回の話が”面白いの面白くないの”というよりかは、謎解きに入っていってから、また全てが見渡せる状態になった時点で、意外とすっきり納得がいって良かったなと思うタイプの作品だと思います。よって、毎回どうのっていうのはちょっとあれなのですが、今回は単体でも見応えもあって中々の出来だったと思います。もちろん非常にタイトというかミニマルでCLOVERWORKSならではの必要最低限の部分を都合よく見せているなぁとどうしてもある程度は感じてしまうところもあったのですが、赤城さんは最高にドストライクの可愛さですし、色々と詰め込まれていて楽しめたので今回は好印象です。

『ブスに花束を』なんですが こちらは最後までピックアップの3作品にいれるかどうかですごく悩みました。まぁ突出して優れた作品というわけでもないのですが、何気に楽しんで見ている作品です。肩肘張らずに気軽に見られるので、余裕があれば人は是非視聴してみてください。見ごたえはないですけど、そこそこ楽しめるのじゃないかなと思います。ただ今回はCパートに少し矛盾を感じてしまったので若干評価は落としましたが、引き続き楽しんでいきたいと思います。

『宇宙人ムームー』はいつも通りです。面白かったです。桜子はどんどんエロくなっている気が・・・そしてそのイケナイ方向への成長も心配です。故郷やおばあちゃんのことを忘れずにいて欲しいものです。

『よふかしのうた　Season 2』

（ちょっと長文になります）

こちらは第１期が本当に大好きだった自分としてはすごく寂しい感じです。当時の魅力は今やもう大分ないかなぁと思います。これは本当に個人的な感想なのですけれども、本作はもっと狭い世界の話で良かったのです。コウくんのいる団地の中での世界。そして夜という世界に入門したコウくんがナズナちゃんとの関係を通してある意味閉じられた空間にいたコウくんの世界が広がる？ナズナちゃんと過ごす時間というレンズを通してみる夜の世界というのは、新鮮で色んな意味でどこかすごくワクワクもドキドキもすると同時に、神秘的でミステリアスでちょっと不気味でもある。ナズナちゃんと出会ってこれまでの自分の狭い部屋、ベッドの上や団地の敷地内などの極限られた範囲で過ごしていたのがナズナちゃんの部屋で過ごすことも増えていったり、空を飛んだり色んな場所に行ったりもするようになるが、それでもその世界はまだコウくんとナズナちゃんの二人のフィルターを通したもので限られたものだった。その世界を二人と一緒に見る、体験するっていう感じがとても良かったのです。それが今はすっかり変わってしまったなぁと。ナズナちゃんの同族の吸血鬼たちとか、その眷属とか、反吸血鬼の探偵さんとの攻防とか、はたまた妙なギャグ的なノリもすごく多くなってきて、正直そんなの見たいわけじゃないんだよなって感じです。秋葉系の古のキモヲタの描き方、ギャグも面白かったしその有り様もかっこよくって良かったですが、メインの魅力はそこではないのです。あとはコウくんかな。何でだか良くわからないんですが、今期はコウくん自体に全く魅力を感じていないんです。事態も変わっているし、眷属になるというはっきりとした時間制限のある中でコウくん事態が必然的な成長してるってことなのかもしれないんですが、なんか違うし面白くないです。あの同じ団地に住むあの同級生？幼馴染？の女の子とかもっと出て欲しいし、普通に夜を過ごす、よふかしのありかたというか・・・といった小さい世界をもっと描いてほしいなと思います。現状での展開や膨らまし方、変化はある程度必然であることは理解してるんですけど。

『光が死んだ夏』今回は珍しく光やアラタと周りのみんなをちゃんと描いていた回です。この作品、あまりこういうのをじっくりと描かないので、いまだにイマイチ話にもキャラにも入り込めないでいるんです。オカルトで言えば恐ろしくもおどろおどろしいやばいことが起こったりする回、またアクションものではバトルシーン全開の回とかじゃない、日常部分がちゃんと面白く、またしっかりと描かれてないと全体がどうしても面白くならないんですよね。 なので、今回はちょっと良かったんじゃないかなと思いました。オカルト的な部分？はなんだか意味不明ですし興味もあまり持てません。街灯の下で蛾がもがいていて、そこに怪異がバッと現れるみたいなのとか象徴的ではあり、いかにもなんですけど、まぁ「…。」って感じです。あの霊感少女がちょっと勘違いをしていて光に”霊が取り憑いていると感じていて、でもそれは光を護ろうとしているから悪いもんじゃないよってことを言おうとした”みたいなのはちょっと 面白かったかなと思いました。ただ本当正直なところを言うと、今作にはいまだに全く興味が持てていません。

といったところが15位までの作品の大雑把な感想となります。 その他の作品たちは特に言うことはないかなと思います。今後、中盤を過ぎてくるとどんどん見限って視聴作品数が一気に減っていくのではないかと、それがまあ毎クール通例の流れなのでそういうことも起きてくると思いますが、今クールは果たしてどうなるでしょうか。